

国際交流員のコラム

● ニーハオ！こんにちは！ ●

— 鹿児島県国際交流員 トウ・レイカ（中国出身） —

今年の4月から県庁国際交流課で勤務し始めた、国際交流員の鄧麗霞と申します。中国江蘇省常州市の出身で、中国では、南京農業大学に勤めています。以前、留学で神戸や京都に住んだことがありますが、鹿児島を訪れるのははじめてです。JETプログラムを申請する時から、鹿児島の歴史的な遺跡や名物・特産を調べ、試験に合格してからは、一刻も早く鹿児島に赴任したいと思いました。鹿児島空港に着いた時から、シュロの木を街路樹とし、山を背に海に臨む鹿児島の南国風景に惹かれました。

赴任してからは、指宿へ出張の際に、JR 日本最南端の西大山駅を案内してもらいました。ほぼ同緯度にある上海と江蘇省が海のすぐ向こう側にあることを知って、鹿児島に対する親近感を一層抱きました。

鹿児島の海や火山など雄大な自然を見ると共に、地震や火山の噴火、豪雨を経験して、人間が宇宙のほん小さな存在であることを実感しながら、海の向こう側の世界を知りたいと願い、海を越えたコミュニケーションをしようとする人を尊敬しています。

鹿児島での日々は、中国ではキャッシュレスの毎日を過ごしてきましたが、県庁では、お昼ご飯の注文を現金で支払う必要があるため仕事が始まる前に、お弁当を注文する小銭を持っているかどうかの確認を行うのが日課となりました。実際に現金を支払うことで、お金を大切に使いたいという金銭観念、そしてそれに伴い仕事を頑張りたいという意志が強くなっています。

仕事では主に中国語にかかわる翻訳や通訳、講座や交流のような業務を行っています。最初は多数存在する厳しいルールに慣れなかったため、緊張したりしてストレスがたまりました。でも、ルールがあったからこそ、仕事は予定通りに進行していることがわかったと共に、ルールの下仕事を行うことにも、慣れ、安心できるようになりました。仕事が順調にできた時は、一日の最高の時間だと思いました。

鹿児島での滞在は、あっという間で3ヶ月過ぎました。「すめば、みやこ」という諺のように、親切なみなさんのおかげで、生活も仕事にも早く慣れるようになり、特別ではない何気ない日々も最近は楽しんでいます。これからも、いろいろ学びながら、頑張ります。よろしくお願いします。



中国での勤め先である、南京農業大学の教学楼



中国上海とほぼ同緯度の西大山



指宿市にあるフラワーパークかごしま